

はんのう 獅子舞めぐり





歴史を伝える — 獅子舞に携わる人たち

江戸時代から続く伝統芸能、獅子舞を未来に伝える人たちに話を聞きました。

南川の獅子舞 太夫(たゆう)

ひらぬま てつや
平沼 哲也さん



「南川の獅子舞は、龍の頭が珍しく、龍神と縁が深いといわれています。南川地区にとって獅子舞は家族や地域社会との絆を深める「誇り」だと思います。獅子舞を通じて様々な世代の方と交流を深め、地域が抱える諸問題について語り合うことで、地域の先輩世代の方々の熱い想いを知る機会となっています。奉納する毎年8月16日、17日は、夏真っ盛りで、暑さと獅子頭の重さで、踊りながら身体がよろけてしまったこともあります。私にとって獅子舞は地域社会とつながる場であり、生き甲斐です。ぜひ南川の獅子舞を見に来てください。」

「名栗へ引っ越してすぐ下名栗の獅子舞の「白刃」を見に行き、獅子3匹のシンクロ、花笠の衣装、神社の佇まい、全てに感動し、笛方として携わるようになって5年。たくさんの方と知り合いになれたことがなにより嬉しいです。獅子舞は下名栗の命だと思います。獅子の一生は町の一生で、一人で担えるものではなく長い長い物語をみんなで紡いでいる最中なんだなあ、とその一部になれたことを心から嬉しく思います。見渡せば子ども達は去年より大きくなり、息子は今年、花笠デビューします。」



下名栗の獅子舞 笛方

もしの ゆか
若野 由佳さん

小瀬戸の獅子舞 子ども獅子

左から
かし かなと
加治 奏人さん
こしま かなと
小島 叶大さん
すだ けいた
須田 恵多さん



「小瀬戸の獅子舞には、子ども獅子があります。獅子舞は、兄弟がやっていたり、誘われたりして、楽しそうだったので始めました。回り方が難しかったり、獅子頭も重かったり、太鼓のバチの持ち方も独特で大変なこともあります。楽しく練習を頑張っています。小瀬戸地区にとって、獅子舞は伝統的で大切な存在です。僕たちも一生懸命練習して舞うので、皆さんぜひお祭りを見に来てください!」

知っておきたい! 獅子舞基本知識



笛・歌

獅子舞の伴奏となる音楽は、獅子が自分でたたく太鼓と、笹楽(ささら)、笛です。笛は、耳伝えて代々传承されており市内では六つ穴・七つ穴の笛を用います。また舞の途中に「獅子歌」が入ります。

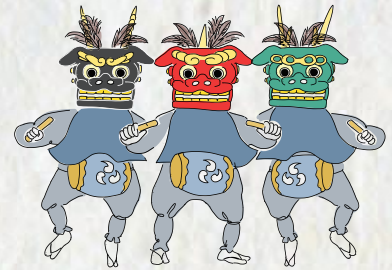
花笠

獅子舞の伴奏を奏する笹楽(ささら)を擦る役で、ササラ子や笹々良などとも呼ばれます。飯能周辺では4人が多く四隅に立って舞の「場」を固めたり、ストーリーの中で花畑に見立てたりすることも。女兒や男児が担います。



庭

獅子舞を行う場所を舞庭などと呼び、一つの演目のことを「庭」、舞の数を「庭数」と呼びます。名栗地域では「芝」とも呼びます。



獅子舞

三匹獅子舞は男獅子2匹と女獅子1匹で構成されています。獅子頭には、龍頭と獅子型がありどちらも角を持っています。女獅子は短い角や宝珠があります。

獅子の呼び方

三匹獅子舞の男獅子2匹と女獅子1匹を「太夫(たゆう)・男獅子・女獅子」名栗地域では「大太夫(おだい)・女獅子・小太夫(こだい)」と呼びます。飯能諏訪八幡神社の獅子舞では「先獅子・中獅子・後獅子」と呼びます。

獅子舞を鑑賞するときは…

- 多くの獅子舞は神社に奉納される芸能です。以下のマナーを守って鑑賞してください。
- 許可なく社務所に入ったり、衣装や道具にさわったりしないようにしましょう。
- 演目中は笛方と獅子の間を横切らないようにしましょう。
- 静かに鑑賞するようにしましょう。
- 写真や映像を撮影するときは、獅子舞奉納の邪魔にならないようにしましょう。

問い合わせ 生涯学習課 TEL973-3681

